

企業名：日立金属

レポート名：日立金属の統合報告書を読んで

1. この会社が目指す姿が理解できるか

この会社が目指す姿は、持続可能な社会に貢献する高機能材料会社、品質管理の徹底した会社、そして経営環境の変化があったとしても安定的な事業活動を継続できる事業構造の会社である。前者はこれからも会社の利益を持続させるうえで重要であり、投資家にもチェックされる場所である。後者二つも、露見した品質管理問題や現在赤字となっている事業成績を踏まえて建てられた目標であることが読み取れ、現在の問題点と会社の目指す姿の因果関係は非常に明確であると言えるだろう。また、品質管理と財務上の問題については、ただ問題を提示するだけでなく、原因や解決策、リスクが詳しく述べられている印象を受けた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社の競争優位性は、技術力であろう。金属材料や機能部材では、高付加価値製品へのシフトを行っている。また、磁力の強いネオジム磁石を開発した実績を持つこの会社は、現在も様々な部品を企業向けに提供し、高度な研究を行っている。例えばEVについては、年間118万台分のネオジム磁石を提供している。これは世界で一年間に生産されているEVの6分の1を占める。ひとつの日本企業がここまでの数字を出していることに驚いた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

現在生産量が伸びているEV用の部品の生産を行っていたり、電力を損失しない電力変圧器の部品を提供したりしている。EVはこれからも生産量が伸びる車種であると考えられるし、送電時の電力の損失は砂漠での太陽光発電の障害であり解決が望まれているため、その点で日立金属は持続性を持つ産業に進出しているといえる。持続可能な社会を実現することと会社の利益を追求することが両立できているのを見て取れると思う。また、研究開発にも力を入れていることも読み取れる。2020年度の研究開発活動の主な成果を統合報告書に載せているのが、具体的にどのような研究をしているのかわかりやすくてよいと思った。ここからイノベーションが生まれ、将来の事業につながっていくのだろうと思った。

しかし、この会社の競争優位性はその技術であり、作られた部品の質の高さである。こ

これは日本の会社自体の優位性であるともいえる。このような会社で品質管理がなおざりになっていたことは、この会社の競争優位性を著しく損なう事態であったと思う。このような事態が再発すれば日本の製品自体への信頼が揺らぎかねないと思うので、二度と品質不正が起きないように日立金属の方たちには尽力を続けてほしいと考える。また、そのほかのリスクと解決策が列挙してあったが、中にはあまり詳しく述べられていないものもあり、私たちの不安を払しょくするためにきちんと述べてほしいと思った。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、この職場で自分を成長させることができると思う。グローバルに人材を取り入れていることからいろいろなバックグラウンドを持つ人と仕事をすることができると思われ、社内外の人材交流も盛んにおこなわれているからである。海外業務研修やグローバル研修も魅力的である。

一方で、女性の雇用数はまだ少ない。特に技術系では、10パーセントを下回っているのが現状である。また、女性の活躍推進についても、子供の生まれた男性社員または女性社員の配偶者に向けて「パパエプロン」を贈呈しているという記述があったが、育児休暇の取得についての記述は見当たらなかった。男性が多い職場なら、父親の育休取得を推奨することが女性の社会進出を促すのに効果的なやり方である。もし推奨していないならした方が良くと思うし、既に実施しているなら取り組みとして記載すべきだと思う。「パパエプロン」では、本当にこの会社は育児に理解があるのだろうか、と尻込みする女性もいるだろう。つまり、私は一人の人間としてはこの会社で働くこと自体は自身の価値向上につながると思うが、女性としては結婚、出産、育児のために仕事に影響が生まれることを危惧するということだ。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

改善の余地があった点は、後ろ向きな内容が多いことだ。もちろん、問題を上層部が認識していることは大切であるし、それを包み隠さずに統合報告書に表しているのも良い姿勢だと思う。しかし、このような姿勢が行き過ぎ、日立金属が問題だらけかのような印象を受けた。私は日立金属という会社をこの授業で初めて知ったが、統合報告書を見る限り、この会社の抱える多くの問題に不安感を覚えた。日立金属は高い技術力を持っており研究も活発なため、経営をこれから立て直していけば十分に将来性があると言える。品質管理問題が起きてしまい、反省の姿勢を示すために慎重な内容の統合報告書を出すことにしたのかもしれないが、私はもう少し表現を工夫したり、報告書に掲載するリスクを取捨選択する、行っている改革を丁寧に書き、問題解決に向けて進んでいることを示すなどの方法によって、掲載内容を大きく変えることなく閲覧者の不安感

をある程度減らすことができるのではないかと考える。

参考資料：日立金属 統合報告書 「日立金属グループレポート2021」